



学校だより

令和2年4月6日

4月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「目黒のさんまとお城のさんま」

校長 住田 昌治

日枝小学校創立110周年を迎える令和2年度が、新一年生101名を加えてスタートしました。今年度も、日枝小学校のよさをさらに伸ばし、子どもたちにとって充実した教育活動を行い、一人一人が生き生きする学びや活動ができるように努めて参ります。

目黒の農家で食した野趣あふれるさんまの味が忘れられない殿様が、食膳にさんまを所望しました。家臣たちは驚いて、ワタを取り、骨を抜き、皮を剥いで蒸すなど、さまざまに手を加えて、味もそっけもなくなったさんまを出したので、殿様が「さんまは目黒にかぎる」と嘆いた。



というのは、落語で有名な「目黒のさんま」のあらすじですが、この話から「親や教師が手をかけ過ぎ、口の出し過ぎは、子どもの自ら伸びる力を奪い、教育上マイナスである」という教訓を汲み取ることができます。

教師の与える知識・情報を受け入れるだけの学習や、教師に誘導されるままに進める学習では、達成の喜びを味わうことはできないし、自ら学ぶ力も育ちません。学習に限らず家事の手伝いや清掃や飼育・栽培などの仕事でも、親や教師の「こうしなさい。ああしなさい」という指示のままに動くのでは、意欲も湧きませんし、能力も磨かれません。

仕事をする一連の過程の各段階で、いちいち指示を与えるのではなく、まず明確な目標を持たせたら、目標を達成するまでの過程や方法についての見通し（計画）を立てさせ、いったん仕事にとりかかったら、子どもを信じて、口や手を出さずに黙って見守るのが、主体的に学習や仕事に取り組ませるコツだと思います。その際、計画段階で目を通して、相談に乗ったり、最終段階で成し遂げた成果を確認して適切な賞賛・激励のことばを与えたりすることも効果的です。新学習指導要領が完全実施となりますが、子どもが自ら学び考える力を培うこと、「生きる力」を育むという理念は変わらないのです。

本校では、今年度も学校教育目標「生き生き日枝っ子」の実現に向けて教育活動に取り組んでまいります。学校では、今年度も様々な取組を行いますが、教育活動の最も基礎となるものは、保護者や地域の方々との一層の連携・協働であると考えております。どうか、今年度も子どもたちのために一層のご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症に対応するために、通常の授業や教育活動ができず、子ども達にもご家庭にも多大な我慢を強いることになることを大変心苦しく思います。新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束することを願い、感染予防に取り組みながら、粛々と教育活動を進めてきたいと思っております。